



10月の園だより

社会福祉法人 であいの里 さやま保育園
2022年 10月1日

保育目標 聞法 よくききます

- ・先生やお友だちのお話をよく聞き、自分の考えも言える。
- ・季節の変化に気づき、自然事象にも興味を持つ。



【法話】 六つの心(迷いの心)

先月9月23日のきららドームでの運動会には、温かい御声援有り難うございました。コロナ禍のなか、参観日等、オンラインでの開催でしたが、同じ場所・同じ時間を過ごせた『うんどうかい』が開催できたこと嬉しく思っています。これも、保護者の皆さまの御理解御協力のもと、感染予防対策のおかげと感謝しています。

誰が感染してもおかしくないこの時期だからこそ、逆に、有り難く思います。有り難うございました。

私たちはみんな「心」をもっています。でも、その心は、一人一人みんな違います。そして私一人の心でも、一瞬一瞬ひとときも同じ心でいることはありません。仏教では、六道といって、私たちの心は大きく分けて六つに変わると説かれています。

じごく
地獄の心(人を責めたりいじめたりする鬼のような心)

がき
餓鬼の心(あれが欲しいこれが欲しいという心)

ちくしょう
畜生の心(恩や恥を知らない心)

しゅら
修羅の心(怒っているときの心)

にんげん
人間の心(苦しいことがいっぱい心の心)

てんじょう
天上の心(大喜びで自分のことしか考えない心)

の六つです。私たちの心は、朝から晩まで、生まれて死ぬまで、この六つを繰り返して続けます。これが六道輪廻で、私たちの迷いの姿なのです。六道輪廻は、死後の輪廻ではなく、今、生きている時に輪廻しているから、それを迷いというのです。

迷いを迷いと知らずに生きている私たちが、この迷いの世界から出て、さとりの世界へと至る道を、仏教・仏道と言います。

合掌

今月の行事予定

- 3・11・17・24・31日 礼拝 5日 ぐりぐらえほんかん
11日 いもほり(もも組) 13日 内科検診・避難訓練
14日 いもほり(ほし・いちご組) 発育測定(12日
ほし・いちご 13日 うさぎ・もも 14日 あひる・ひよこ)
14日 交通指導 18日 園外保育(未満児)
20日 クッキー作り 21日 誕生会 28日 やきいも
就学時健診(4日佐山 17日阿知須 21日上郷)

※29日(土)土曜日特別保育がありません



「こどもまんなか社会」

来年4月より「こども家庭庁」が創設され、これは『こどもまんなか社会』を実現することであるとされています。乳幼児期の保育の重要性、子ども主体の保育が求められ、さやま保育園でも、ただ社会の波にのまれることなく、目の前の子どもたちをしっかりと見つめ、本当に何が必要であるかを見極めていきたいと思っています。

今年の運動会も、そんな思いですすめて参りました。昔の運動会に馴染まれた方や、当日しかご存じのない方には、何か物足りなさを感じさせたかもしれません。しかしながら、こどもたちの目が、生き生きと輝いていた事に気付かれたでしょうか？笑顔で運動会を楽しんでいた姿をご覧になりましたか？大人が考える運動会は、「勝ちたい」「みんなと同じ事ができる」「最後まで頑張る」等ですが、今年の子どもたちが話し合いを重ねる中、運動会でやりたいことは、「恥ずかしいけど、勇気を持って、助け合って、みんなで協力していく」事でした。

「ぼうはしりくるくる」の時、転けてしまったもも組を優しく立たせてあげる姿。「たまちゃん」は当日が最高記録でした。「キラキラはしりたいかい！」は、自分で走り方を決め、保護者に何と言われようが意志を曲げない姿。ゴールテープを持ちながら、応援の声を出し続ける姿。「おすもうさんにはまけないぞ！」では、応援席で踊り出すもも組の姿。「ぼく走るの自信ないけど、サッカー任せて!」と話す子。Y君のペースにずっと寄り添ってくれる子。「ぼく毎年運動会の練習見るの好きなんよね。だって給食室から美味しい匂いがするから」一人ひとりの素敵なドラマがあった、きらら運動会でした。

一人ひとりの成長をしっかりと見守り、そのまま認めていくことが、子どもまんなかの保育であると、子どもたちから学ばせてもらいました。どの子も一人ひとりが、やりたい、伸びたい、楽しみたい、笑いたい、そんな気持ちでいっぱいです。

この度、佐山小学校の校長先生にご来場いただき、保護者のみなさんのボードの応援を見て、「子ども一人ひとりのための応援ボードなんですね、お家の方がここで私一人を応援してくれているという気持ちになれてうれしいですね。」と、大変感銘いただきました。

